

平成29年12月28日発行

ISSN 0918-9173

# 福岡県保健環境研究所年報

## 第44号

平成28年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute  
of Health and Environmental Sciences  
No.44 2016*



福岡県保健環境研究所

---



## はじめに

平成 28 年度の業務及び調査研究実績を取りまとめた福岡県保健環境研究所年報を作成しましたのでお届けします。ご高覧の上、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

平成 28 年度の本研究所における取組や出来事について紹介します。

平成 28 年 11 月 10 日、11 日に、第 2 回世界獣医師会—世界医師会 “One Health” に関する国際会議が、福岡県北九州市において開催されました。One Health という考えのもと人と動物の共通感染症や耐性菌等の問題について講演やディスカッション等が行われ、今後、これらの対策の推進が求められます。当所においては、福岡県が進めている人獣共通感染症対策の一環としてペット等の微生物検査等を行ってきました。

また、耐性菌対策についても、検査が十分にできるよう準備を進めています。

未だ多くの患者が発生し、しばしば集団発生が問題となる結核については、VNTR 解析を行い分子疫学的分析を行っています。

さらに、海外から持ち込まれる可能性のあるデング熱やジカ熱等の蚊媒介感染症に対応するため、蚊のモニタリング調査を始めています。

食品分野では、清涼飲料水の規格基準が改正され大幅に検査項目が追加されたため、分析法を検討し新基準に対応した検査を開始しました。

環境の分野においては、ツマアカスズメバチやヒアリ等の有害な外来生物がマスコミ等で大きく取り上げられ話題になりましたが、当所においては、これらの有害生物に対する対策について、研修会の講師を務めております。この他にも、福岡県における侵略的外来種リストの作成とその対策を検討しているところです。

また、福岡県では、中国の江蘇省と環境協力を行っており、大気改善事業への参加に取り組むようになっています。

さらに、糸島市が玄海原子力発電所の UPZ (Urgent Protective action planning Zone : 緊急防護措置を準備する区域) 圏に含まれることから環境放射能モニタリング体制の整備が進められています。当所には、新たに、液体シンチレーションカウンターや放射線モニタリングカーが導入されました。並行して行われる原子力防災訓練にも積極的に参加しています。

ベテラン職員が退職していく中、若手職員が増加しています。人材の育成が求められる中、14 名いる 3 年目までの職員を 2 班に分け、自分の得意分野や研究の在り方等について議論する「若手ミーティング」を行いました。ここで話し合わせ、提案された研究テーマについては、その技術評価や実現性等について所内で検討し、その一部は、30 年度から新たに実施する研究に反映されています。今後も、若手職員の成長を、継続して図っていきたいと思っています。

平成29年12月

福岡県保健環境研究所長 香月 進